

オスプレイいらない

佐賀展示飛行計画に住民抗議



陸自目連原駐屯地の門前「オスプレイいらない」の声を上げる抗議行動の参加者ら=29日、佐賀県吉野ヶ里町

佐賀県内で陸上自衛隊オスプレイのデモフライト（展示飛行）が行われる問題で29日、飛行などが計画されている陸自目連原（めたば）駐屯地（佐賀県吉野ヶ里町）で、地方議員などを対象にした見学会が開かれました。同基地門前では、反対する住民らが抗議行動をしました。

オスプレイは千葉県・木更津駐屯地から27日に飛来。12月3日に展示飛行する予定です。同県内の陸自オ

スプレイの訓練などでの飛行は初。
抗議行動は「佐賀空港オスプレイ等配備に反対する裁判を支援し、地権者とともにたかう市民の会」が主催。参加者2人が「佐賀の空にオスプレイはいらない」とコールしました。

抗議行動の直後には

米軍オスプレイ墜落の鹿児島・屋久島沖での

一報が入りました。基

地内でもオスプレイを調査した日本共産党の武藤明美県議は「米軍の

事故を起こしたのはシ

ョック。飛べば飛ぶほど危険な機体、住民と

ともに飛行・配備反対の声を上げていく」と語りました。

抗議行動で同会メンバーや塙山正孝さん（76）は、配備を前に住民の不安を和らげる狙いがあるのでと指摘し、「オスプレイは墜落事故や緊急着陸を繰り返す欠陥機で『安心だ』というのは無理で許せない。黙っていれば配備を認めたことになる」と語りました。

基地近隣に住む執行秀利さん（80）は、同日朝、オスプレイが飛行していたと憤り、「ここ一年、ヘリの離着陸の回数が増え時間も早朝から夜まで広がっている。テレビをつけていても音が聞こえないほどの騒音で際限がない」と話しました。

抗議行動で同会メン

バーの塙山正孝さん（76）は、配備を前に住民の不安を和らげる狙いがあるのでと指摘し、「オスプレイは墜落事故や緊急着陸を繰り返す欠陥機で『安心だ』というのは無理で許せない。黙っていれば配備を認めたことになる」と語りました。

基地近隣に住む執行秀利さん（80）は、同日朝、オスプレイが飛行していたと憤り、「ここ一年、ヘリの離着陸の回数が増え時間も早朝から夜まで広がっている。テレビをつけていても音が聞こえないほどの騒音で際限がない」と話しました。